

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800396		
法人名	有限会社 グループホーム 高野の里		
事業所名	グループホーム 高野の里		
所在地	長崎県松浦市志佐町高野免631-4番地		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で利用者様に「ゆっくり、楽しく、安心した」時間を過ごして頂けるよう、日々努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

22年度より、管理者、介護支援専門員ともに新体制となられた。新しく就職された介護支援専門員の方も包容力があり、積極的にホームに馴染まれるように努めてきた成果もあり、外出も増え、職員とのチームワークも強くなってきている。施設長の奥様が管理者に就任されてからは、職員間の申し送りも増えている。民家を改造した平屋造りの家の中では、ゆったりとした時間が流れ、色々なお話をしながら洗濯物をたたまれたり、“ごぼうそぎ”や”野菜の皮むき”等を手伝って頂いたり、ご利用者の培ってこられたお力を発揮いただく機会を増やしている。手作りのオープンテラスからは、眼下に段々畑が見渡せ、お天気の良い日には、ご利用者同士がお茶を飲みながら、寛いだ時間を過ごされている。22年1月には、開設以来初めての運営推進会議が開催され、会議を通して地域の方々の意見交換も増えてきており、22年12月からは“高野の里だより”を再開するなど、日々着実に前進を続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	言葉ずかい、態度は、日々生活の中で理念に基づいた介護を行うように努めている、職員会議、ケア会議、介護現場においても職員間で話しあいながらさらに実践につなげたい、	「ご利用者の人権を尊重し、家庭的な雰囲気の中で、皆様と一緒に、ゆっくり、楽しく、安心して」を理念として掲げており、ご利用者と一緒に料理を作ったり、一緒に過ごす時間の中で会話も増えてきている。より安心した生活が行えるように日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入後は回覧板を回すことで隣家に行く回数も増え日常会話の中で施設内の情報を伝えることも多くなる、夏祭り開催も区回覧板を利用していただき案内している。地区のミニ演芸会に参加し、顔なじみの方々と親交を深めている。	回覧板の情報により、地区のミニ演芸会見学、老人会クラブ大会にも参加された。地域のお祭りや婦人部による“おばちやま劇場”にも出かけ、地域の方との交流を続けている。敬老の日には、区長や婦人部の方がお祝いの品を届けに来て下さり、22年から運営推進会議も開催されている。	運営推進会議の場でも、「地域の方や保育園児などに、ホームに来て頂いてはどうか」という貴重な意見を頂いた。これから、保育園や小中学校の方にも声かけをしていく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベント見学、商店街での買い物、地区のミニ演芸会のお誘いに参加。定期受診で地区の病院に行った時や、散歩の途中で声をかけていただいたりしながら、普段の生活の中でのかかわりのあり方等を発信していけたらと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第その時々に応じたご意見をいただき、より一層のサービス向上に役立てたいと、頑張っています。	22年1月から会議を開催しており、ご利用者、ご家族、民生委員、市の職員に参加頂き、年末までに6回行うことができた。参加者より「職員の教育のために、教育委員会の出前講座を利用しては？」等の提案も頂けており、有意義な会議となっている。	今後も、他のご家族の参加を呼びかけながら、より多くのご意見を頂きたいと考えられている。また、山の上のホームと言う事もあり、参加者の方々と一緒に、災害対策等の話し合いも続けていく予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方からの連絡、指導等がある、積極的に取り組みたい、又居宅事業所研修会へも参加して情報の収集に努めている。	運営推進会議の開催についてや書類関係等、介護支援専門員の方が、市の窓口を訪問して相談した結果、22年1月、最初の運営推進会議の開催に至った。メール等で研修等の情報も頂けており、研修の場でも地域包括の方との情報交換ができており、親身に対応頂けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間防犯の為に施錠しているが基本的に、玄関等の施錠はしていない、身体拘束をしないケアに取り組んで継続している	職員は身体拘束にあたる行為を理解し、身体拘束の無いケアを実践している。研修を受講した方は、他の職員にも伝達している。夕方以降、精神的に不安定になられる方は一緒に散歩するなど、安心に繋がるような対応をしている。ベッド横にセンサーなども利用しているが、常に見守りもやっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加、又ミーティング、ケア会議、自己学習の中で虐待があってはならないこととして防止の徹底に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報の回覧、パンフレット等での学ぶ機会があるが具体的な取り組みはまだ行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前少なくとも、1度はご本人と会い、ご家族の方とは必要に応じてお会いし、ご本人、ご家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得が得られるよう十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口の見やすい所に意見苦情受付箱を設置している。入所契約時、面会時にも要望、意見があればと説明、声掛けをしている。又今年度から、ご本人の生活、医療関係、健康状態を記録した「経過表」を郵送、確認していただいている(月1回)、又今後は運営推進会議等の中でご家族の意見などもいただくようにしている。	面会時に日頃の状況の報告を行いながら、要望を伺っている。「残存機能を維持してほしい」との要望があり、部屋から遠くのトイレを使い、運動量を増やすことも行った。また、外出の要望があり、「卒寿のお祝いを家族で行いたい」との事で、市外のホールへ外出された。日々、頂いた意見の反映ができるように努めている。	今後も引き続き、運営推進会議等にご家族の参加を呼びかけていき、意見を頂く機会を増やしていく予定である。ホームの中で、少しでもゆっくり過ごして頂くために、“ご家族ならではの役割”を担って頂ければと考えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングにおいて意見や提案を聞きながら実施している、また日頃から意見を聞き実施、反映させている	以前よりも職員の意見は増えてきている。施設長からも「職員は、ご利用者の事を思って動いてくれているので、頭が下がります」と話されていた。優先順位を考えながらも、職員の意見を反映するようにしており、必要な倉庫などの導入も検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力は代表者として理解はしています。働きやすい様にはしていますが。経営的な事もありません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員に関して出来るだけ外部の研修会には参加出来る様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設を見学したり、行事に参加させていただいたりしているが人的、時間的な面が限られており余裕がないのが現状であるため、ケアマネ会主催の研修会に参加したりして色々な施設との交流が出来るように働きかけている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に寄り添い共に行動する事、できるだけ話をする機会を設け良く話を聴くこと、その中で困っていること、不安なことを聞きだせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時等、話し合える時間を持ち、ご本人の状況を伝えたり、意見、要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を重視してサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション、食事の準備、後片づけ、お互いの家族の話、TVのドラマ、報道などその時々話題を盛り込みながら、喜び、悲しみを共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、敬老会、クリスマス会、誕生会等に家族も参加して頂き家族と共に過ごしていただく時間を大切に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、娘さんの嫁ぎ先、ドライブを兼ねて訪れている葬儀、供養にも出席できるよう家族に負担がかからないよう家族、本人の希望があれば付き添っている、毎年正月には地域の神社に初詣に出かけているが今年は感染症の予防の為に中止した	他の施設に入居されている妹さんを訪問したり、生家を訪問したいのご希望で、ご家族に打診する等の支援が行われている。また、葬儀参列のために職員が同行したり、馴染みの美容院やお店などにお連れするなどの支援も行われている。敬老の日には、同郷の区長、地区の婦人部の方等がお祝いの品を持って訪ねて下さった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室にテレビを置かず娯楽室、食堂で一緒に観、レクリエーション等をとうして関わり合えるように努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はお見舞いに行き関係者から病状、経過の情報を得るようにしている、また家族の負担が少しでも軽くなるのではと、洗濯物の支援等に努めている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの思い、希望、意向を尋ねても答えられることは少ない、会話、日々の生活を通じてご本人本位の希望、意向の把握に努めている	ご家族、ご本人との会話の中で、意向の把握に努めている。入浴時や夜勤の時など、ご利用者と1対1になった時に、ゆっくりお話をしながら、ご希望やご意向を伺うことが多い。ご家族やお子様の事をあまりお話されない方には、若い頃や結婚した頃の話などを投げかけ、若い頃の生活状況、食べ物等のお話を伺う事ができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、医療関係者、福祉関係者等から情報把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事、排泄、睡眠状態、精神面の観察、記録、申し送り等において把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご本人、ご家族の希望、要望を聞き情報収集をしている、毎月の会議の中で話し合いながら現状に即した介護計画を作成できるよう努めている	ご利用者、ご家族等の意向を伺い、計画作成担当者が原案を作成し、全職員で検討している。計画には、ご本人の力が発揮できるような役割が記載されており、ご本人主体の目標が掲げられている。また、“地域で暮らす”という視点で計画が作成されており、3表には、ケアの具体的な手順も記載されており、統一したケアが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護日誌、ヒヤリハット、申し送りモニタリング(1回/月)状況が変わればその都度モニタリングを行い計画の見直しに活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望があるときは自宅にお連れしたり、又通院介助を行い、入院された場合は見舞、入院先の医師、看護師等からの情報収集等に努め、サービスの多様化に努めている。家族から希望があれば、特養等他の施設への入所申請も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、地区内の子供、婦人部が催す会などに参加、地域の人たちとのふれあいが出来、知り合いと合うことで近況報告、昔話などが出来、地域の方からも喜ばれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関に受診している、検査結果についても、速やかに報告しなければならないことは電話で報告、場合によってはDrから直接、病状、検査結果を説明してもらえるようにはたらきかけている	通院介助は職員が行い、受診結果は、異常が無ければ、薬の受け取りや検査結果等を「経過表」に記載し、毎月、ご家族に郵送している。また、面会時に報告したり、特定の検査等の結果報告は、速やかに電話でお知らせしている。病状に変化が見られた時は、ホームの看護師に相談したり、かかりつけ医に相談し、受診している。	ご利用者の体調変化について、日々の体調確認を十分行いながら、早期発見、早期治療ができるように、今後も早めにかかりつけ医に相談していきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々介護現場の中で、朝、夕引継ぎ、申し送りの場をとうして速やかに情報を伝え、看護者から病院看護職、Drに相談、指示を受けられるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけお見舞いに行き馴染みの関係を欠かさないように努め、場合によっては洗濯物を持ちかえっている、必要時は主治医から病状、経過の説明を受けたり、入退院時は病院看護師と服薬、身体状況等の情報交換を行い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族より「どうかあったら病院に連れて行ってください」といわれる事が殆どでそれ以上の事が言い出せない状況もある、今後本人、家族の方との話し合い、説明等が十分に出来るように取り組んでいけるように模索中である。	往診体制がなく、終末期の対応は協力医療機関にて対応して頂く事を、ご利用者、ご家族に説明している。入退院を繰り返されている方のご家族から、「退院後もホームで見てもらいたい」とのご希望があり、ホームの看護師に相談すると共に、医療面の連携を蜜にとりながら、可能な限り、重度化、終末期に向けた取り組みを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者の正常な状態を把握し異常の早期発見、初期対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の立地条件に限界があるが火災に対しては訓練をとうして確認し合っている、	今年度は、消防機器会社の方に参加頂き、消防署と連絡を取りながら、訓練が実施された。災害に備えて、水や缶パン、ラム等の食料、応急セット、懐中電灯、排泄セット等を準備している。日頃から、台所以外では火を使わないようにしており、お風呂も、使い終わったら元栓を切るなどの対策が取られている。	松浦地区全体が、山崩れによる地すべり等の危険地区という事もあり、ホームが地域の方々の避難場所になる可能性もある。可能な限り協力していく予定であり、地域の協力体制を含め、災害時の対策について、運営推進会議で検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に名前を呼ぶこともあるが、尊厳と親しみを持って接している、誘導時の声掛け、特に排泄介助は扉の外で待機し自尊心、羞恥心に配慮した援助をするよう努めており継続していきたい。	優しく、思いやりを持った声かけをしており、必要な介助を拒まれる方にも、丁寧な対応を心がけている。馴れ合いによる言葉遣いが不適切になっていないか等、ミーティングで話し合いが行われている。守秘義務についても、職員は日頃から意識しており、個人記録は、ご利用者に見えないところで書く等の配慮が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	年々重症化しており自分の意見を表出することが困難になってきている。毎日の生活の中で会話の機会を持ち、何気ない会話の中からも思いを拾い出すように、質問しやすいような投げかけでご本人の思い、希望を聞きだすように働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに添った、希望に添った支援が出来るよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等についても色、デザイン、ご本人の希望を第一にと考え、着替えについても選択できるように風呂呂日には着替えの服を準備していただいている、髪カットも希望の長さ等を確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食、郷土食については献立を相談したり、野菜の皮むき、ごぼうそぎなど参加していただいている、食事でも利用者、職員と同じテーブルで同じものを食している、食後は退膳後のテーブルを全員で拭き片付けを行っている	ご利用者に、“今一番食べたいもの”を伺い、日替わりで献立に取り入れている。押し寿司や団子などの郷土料理や、旬のものを使った料理では、ご利用者間の会話もはずみ、昔の話で盛り上がっている。料理の下ごしらえなど、ご利用者と一緒に行っている。3～4ヶ月に1回は、選択メニューを取り入れ、お好きな物を選んで頂いている。	職員による体重測定や残食調査の他、ご利用者の栄養状態等、かかりつけ医に確認頂いているが、ホームで提供している食事のバランスや偏り等について、更に、専門の方に見て頂きたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量のチェック、飲水量の確認を行い栄養管理に気をつけている、お1人お1人の摂食機能に応じた工夫を行い支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所にはなかなか行こうとされない方に、毎食後、お茶を用いてテーブルで「うがい」を行ってもらっている、他の方は洗面所使用、就寝前に義歯の洗浄、消毒介助で実施		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることで本人の排泄パターンを把握、定期的な声掛けで対応できている	日中はオムツを使用せず、トイレを使用して頂いている。一人ひとりの排泄感覚に合わせて、トイレ誘導の声掛けを行っている。間に合わなかった場合も、自尊心に配慮し、すみやかに対応している。羞恥心に配慮して、排泄中は扉の外で待機したり、ご本人に下用の清拭タオルを渡し拭いて頂き、上手くできない時に介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、繊維性のある食材を使用しての献立に工夫をしている、飲水についても毎食のお茶の飲水量、一日の飲水量を確認しあっている、日々生活の中での室内での運動を個人の機能を考えて取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人週2回を基本にしている。入浴を好まれない方には時間や日を置いたり、声掛けする介護者をかえて促し、また他のご利用者さんより『気持ち良かった』と一言声掛けて誘ってもらっ足りしている。又入浴を楽しく入っていただくために順番をくじ引きで決め入浴前の雰囲気作りと平等、公平にと工夫している	入浴回数や時間等、ご本人の希望に合わせた支援が行われており、入浴の順番が偏らないような配慮も行われている。季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯なども楽しませている。羞恥心への配慮も含め、洗身はできる限り、自分で洗えるところは洗って頂いている。入浴中、手の運動をしたり、職員との会話を楽しませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類の定期的、随時の交換、洗濯、日光消毒、など衛生、清潔面への支援をし、昼間の適度の運動により夜間の安眠への支援をしている又寝具類は自宅からの持込で馴染みの布団で気持ちよく安心して眠られるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人お1人の病名、服薬確認、把握に努めている処方時の薬、文献を確認目的、副作用、用法、量など複数の職員で確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をふまえた、個々の生活、機能に合わせた役割で楽しく気分転換が出来るよう働きかけに努めている(野菜の皮むき、洗濯物たたみ、ゴミ箱作り、など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅、妹の入所している施設、などの希望がありご本人の希望に叶うように努めた、家族の方にも、子供さんにも協力を得る事が出来た	不老山公園や市内周辺のドライブ以外に、ご利用者の希望に合わせて、ご自宅や親戚のお宅への個別の外出支援が行われている。ホームの中庭には、手作りのウッドデッキがあり、日光浴を兼ねて、3時のおやつを楽しんで頂いている。月に一度の病院受診を利用して、ドライブに出かけたり、お買い物に出かけるなどの取り組みも行われている。	定期的な受診以外、長時間のドライブなどは排泄や帰宅後の疲労感から嫌がられる方が多くなった。ご利用者の負担にならないように、近隣のふるさと館やダム等、ホームに近い場所への外出等を取り入れていきたいと考えている。ご利用者に負担が掛からず、気分転換が図れるような取り組みに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解があれば所持していただいて、衣類の購入、受診時飲み物を買ったり、一寸した買い物が出来るように働きかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされることは少なく、介護者が促し、すすめてのやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、玄関、テーブルに季節の野花を飾ったり、家具類は使い慣れた物を自宅から持ってきていただいたり、使いやすい高さにするなどに心がけている。天気がよい日のおやつ時はウッドデッキで外の景色を見ながらお茶会を楽しんでもらっている、お風呂もゆっくりと入っていただくためにお1人づつ入っていただいている	リビングにはホットカーペットが敷かれ、全員が輪になって腰掛けられるソファがあり、日中は体操やレクリエーションを行ったり、好きなテレビ番組を鑑賞されている。廊下には、行事の写真や季節に合わせた、ご利用者手作りの作品が飾られている。滑りやすい場所には、滑り止めのシールを貼り、ワックスを塗らない等、安全面にも配慮されている。温度や湿度の調整と合わせ、定期的な換気も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、食堂にテレビを設置好きな場所で好みの番組を観ておられる、又お互いのお部屋で2,3人集まり外の景色を見ながら世間話などをされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類、家具類(整理タンス)、収納ボックス、殆ど自宅で使い馴染んだ物を持ってきていただいている、居室にも家族の写真、家族が作った小物、人形などを飾ったりして心地よく過ごしていただけるように工夫している	使い慣れた家具の他、写真や人形等、馴染みの物を持ってきて頂いている。ご本人、ご家族の意見を参考にしながら、生活しやすいように家具の配置がされている。各部屋には、冷暖房、加湿器、温度計、換気扇が取り付けられ、ネームプレートには、季節ごとの飾り付けが行う事で、季節を感じて頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、衣類等の整理整頓が安全にわかりやすくしていただく為に見やすい高さにしたリ、各居室トイレには名札を付け、理解が困難な方にも良く説明、誘導している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(2)	地域の方との交流が、こちらから出かけることが多く、今までは夏祭りに地区の色んな方を招いていたが今年度は夏祭りを実施できなかったため、来ていただく機会がなかった。	保育園児の訪問や地区ボランティアの方々にも訪問していただけるよう声かけを行い、中高生の体験学習等の受け入れなどで、当ホームの良さを地域にアピールしていく	市の教育委員会や学校関係者にも声かけを行っていく。また昨年実施できなかった夏祭りのイベントも来年度は実施できるように準備を進め、多くの方々に参加を呼び掛けたい。	12 ヶ月
2	(3)	運営推進会議において、家族代表の参加を依頼する際、家族代表者にのみ運営推進会議のあることを説明し参加を依頼していた。ほかの利用者家族には運営推進会議についての説明が不足していた。	家族代表者も同じ方ばかりでなく、違った家族の参加も含め、色んな意見が気軽に言える会議を開催できるように環境と整えて、災害時の対策等についても色々な方面の色んな意見がいただけるようにしていく。	各利用者ご家族に個別に書面にて、運営推進会議について説明し、参加していただけるようお願いしている。ご意見や要望が出やすいような雰囲気作りに努め、ご家族の面会時にも色んな意見をいただくようにしている。	3 ヶ月
3	(6)	身元引き受けの家族が息子さんである場合、往々にして顔を見て安心され、顔を見ただけですぐに帰ったりすることがある。家族と入所者とのかわりが希薄になりやすい。	入所者の家族にも積極的に役割を担っていただき、少しでも一緒に過ごす時間が増えるようになる。	面会たびに本人が希望して顔そりをして帰るご家族がある。何かしらその家族独自の役割作りを手助けして、少しでも会話の機会が増えるように話題を提供していく。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月